『復讐主夫～元殺し屋は社会のゴミ共を制裁する～』の漫画の口コミ・評判に関するアンケート調査結果

■アンケート調査概要

調査目的	『復讐主夫～元殺し屋は社会のゴミ共を制裁する～』の漫画の口コミ・評判に関するアンケート調査
調査対象	『復讐主夫～元殺し屋は社会のゴミ共を制裁する～』を読んだことのある20代～50代の男女24名
調査期間	2026年4月22日～2026年4月23日 2026年5月1日 2026年6月5日 2026年7月17日 2026年8月21日 2026年9月18日
調査方法	インターネット調査
モニター提供元	クラウドワークス
データ使用サイト	https://glucks-web.co.jp/manga-zenkan/hukusyusyuhu/

■アンケート項目

Q1：年代と性別を教えて下さい。
Q2：『復讐主夫～元殺し屋は社会のゴミ共を制裁する～』を実際に読んだ感想を教えて下さい。

Q1：年代と性別を教えて下さい。

20代男性	1人
20代女性	0人
30代男性	8人
30代女性	2人
40代男性	0人
40代女性	6人

50代男性	6人
50代女性	1人

Q2:『復讐主夫～元殺し屋は社会のゴミ共を制裁する～』の感想を教えて下さい。

1話	奈々が可哀そう過ぎて、怒りややりきれなさを覚えました。結婚記念日すら一緒に過ごせなかったうえに、あのような被害に遭ってしまうなんて、あまりにも過酷です。理不尽な暴行に怒りを覚えました。一方で、要の動きが気にかかります。妻を暴行されただけでなく、最愛の妻だけでなく、生まれてくるはずだった命まで奪われたとなれば、復讐を誓うのも無理はありません。加害者側には反省している様子が全く見られませんし、然るべき報いをくらわせてほしいです。
1話	1話だけ読んだだけでは大変胸くそでストレスが溜まる内容でした。ほんわかムードでイチャコラしていたカップルが、次の瞬間には不幸のどん底へ落とされてしまうわけですから。しかしここから元殺し屋である夫が本領発揮して、犯人達に復讐を開始していくことになります。殺し屋スズメバチには、ぜひとも奥さんと子供のかたきを討ってもらいたいです。
1話	主人公が専業主夫という点も、実は武器をたくさん隠し持っている謎の人物だという点も、これまで読んだことがない設定で面白く、第一話目でグッと興味を引かれました。また、奥さんである菜々の職場環境がブラックっぽい描写があったので、彼女がパワハラなどで精神的に追い詰められて、その復讐をする話かと思いきやまったく違ったので、その点も斬新に感じました。
2話	最強の殺し屋と称されるだけのことはありますね。要が把握していたのは、奈々が郊外の雑木林に放置されていたという事実のみ。普通に考えれば、そのわずかな情報から犯人を特定するのは極めて困難でしょう。にもかかわらず、要は見事に犯人へとたどり着きました。限られた手がかりから真相に迫るその手腕には、思わず感心させられます。一方で、暴行犯である沼田は、要に罪を思い出すよう促された際、奈々ではなく別の女性のことを思い浮かべていました。この描写から、彼が常習的に暴行を繰り返してきた人物であることがうかがえます。この悪党には厳しい処罰を下して欲しいです。
2話	てっきり元殺し屋ゆえに、過去のお仕事内容から、誰かから復讐のために奥さんが狙われたのかと思ったけれど、この感じだとどうやら違うようですね。その点は厄介なことにならなそうなので、裏社会の人が絡んでいなくて、少しホッとしました。それにしても流石は元殺し屋。防犯カメラの映像を入手したり、速攻で犯人の一人を捕まえてきたり、手ぎわが本当に鮮やかでお見事です。
2話	内心は最愛の妻である菜々を害された怒りに燃えながらも、冷静に淡々と犯行の痕跡を追っていく要の姿が、さすがその道のプロという感じでカッコよかったです。暴力とは無縁の世界で生きてきたような人物が主人公の復讐モノだと、人でなしな犯人たちから返り討ちにされてしまわないか心配になってしまうところですが、要ならしっかり復讐を遂げてくれるだろうという安心感があり、今後の展開に期待が高まりました。
3話	沼田が処されるシーンは、思わず溜飲が下がる展開でした。必死に命乞いをしていましたが、そんなものが要に通じるはずありません。沼田が必死になればなるほど滑稽に映り、その対比がより一層の痛快さを生み出していました。ただ、沼田に罰を下すことができたとはいえ、すべてが解決したわけではありません。沼田の証言が正しければ、奈々を直接害した張本人は薮木ということになります。沼田とは異なり、薮木は一筋縄ではいかない相手のように思えました。要が無事に復讐を遂げられるのか、注目したいです。
3話	ただのヤンキー達が犯人かなって思っていたら、ちょっと厄介そうというか、バックに変な人たちがいそうなので、兄貴分という人を片付けて終わりになるのかなっていう心配はちょっとありますね。それにしても沼田が、ビビって割とあっさりゲロったけれど、情報だけちゃんといただいて、結局沼田は許さない感じが、ダークヒーローって感じで良い。
3話	最初は強気な沼田。でも半ぐれ組織のメンバーだとか言っても要が屈するはずがないでしょう。というか、すでにクビに縄をかけてといったことを仕掛けてるのですから後戻りはできない。もし放置した

	ら自分が同じ立場にならされてしまうのは当然です。やはりというかひるむことなくさらなる恫喝を続けた要、菜々の前であんなに偉そうだった奴が命乞いする姿はスカッとですね。
3話	権力をかさにかけて、でもそれが効かないとなったらあっという間に命乞い。弱い奴にはとことん強気で、強い奴には巻かれる。とにかく沼田が最低な奴なので、結局はとなった時に同情の余地もありません。菜々だって命乞いはしただろうにそれでも許してもらえなかった。こんなゴミは制裁されて当たり前。でも彼はあくまで下っ端。更に上がいたわけですね。
4話	要の行動には、これまで疑問を感じていました。凄腕の殺し屋でありながら、なぜ専業主夫として生活していたのか。いくら奈々を大切に思っていたとしても、そこまで変わるものなのかと感じていたのです。しかし今回の回想シーンによって、その理由が明かされ、腑に落ちるものがありました。要にとって奈々の存在がどれほど大きかったのかが伝わり、これまでの行動にも納得がいきます。一方で、薮木への対応は素晴らしいものがありました。苦戦する展開になるかと思いきや、驚くほどあっさりと確保してしまったのですから。二つ名を持つ殺し屋だったのは伊達ではなく、実力の高さを改めて感じさせられました。
4話	これまでの話の中で犯人を追跡し、今回の話は要の復讐がさらに先に進んだ節目。もう後戻りできないところまで要が進んでしまった回に感じた。毎回絵も非常に綺麗で、要の顔つき、台詞の切り方、相手との距離感など、文章で流れだけ追うと見落としやすいところも絵でしっかりと表現できていてのめり込むことができる。今後、復讐を進めていく上で、要の精神状態はどうなるのか、最後までしっかりやり遂げるのか。とても気になります。
4話	要の冷酷かつ鬼気迫る様子から、真犯人の藪木に復讐して終わりではなく、ワルプルギスという組織そのものを徹底的に潰すつもりなのではないかと感じられました。悪い人たちが全員成敗される展開はスカッとしそうですが、そんなことをしたら要が平凡な主夫として幸せに暮らす日常に戻れなくなってしまうのではないかと心配になってしまいました。
4話	結婚して殺し屋家業からすっぱり足を払っていた要ですが、奥さんのためにもう一度戻ってきた。しかも沼田のようなザコではなく更に上の真の敵を見据えて、1話2話の頃とは顔立ちが全然違います。戻りたくないのにまたこの道へと戻らざるを得なかった要がかわいそう。菜々さんが目を覚まし復讐も終わって素敵な夫婦に戻ってほしいですね。
5話	話を聞けば聞くほど、薮木の人物像には厳しい印象を抱かざるを得ませんでした。正直言って、情状酌量の余地はないと思います。どれほど赦しを請おうとも、相応の責任を問われるべきであると考えさせられました。一方で、ワルプルギスの存在も気にかかります。前回始末した沼田とは違い、薮木は相応の地位についていました。その点を踏まえると、薮木の言葉どおり、ワルプルギスが要を標的とする可能性も否定できません。今後の展開において、ワルプルギスの動向には特に注目していきたいところです。
5話	あまりにもクズすぎましたし、サクッと復讐が終わってよかったです。この事件をきっかけに、要はワルプルギスに狙われることになりそうですね。とはいえ、痕跡は全く残っていないでしょうし、要からワルプルギスを潰しにかかるのでしょうか。要が最強すぎて、今後もサクサクと復讐していきそうでワクワクしました。
6話	藪木が腕っぷしが強いと言われる時点で、この組織の実力が知れますね。これはワルプルギスを壊滅させるのはあっという間かも。そうなると、次のターゲットが誰になるのかという点が気になります。ワルプルギスの上にもっとヤバい組織がいるということでしょうか。ワルプルギスを潰したら、その組織との対決になりそう。
6話	組織が用意した百戦錬磨の殺し屋が震え上がるって相当ですね。ただ、この殺し屋は洞察力もあるし、危機管理能力もきちんとありそうです。要と直接対決するような事は絶対に避けるでしょうね。あれだけ恐れるってことは、やっぱり要って相当やばい殺し屋なんですね。ますます要のヤバさが判明してきてワクワクしてきました。
7話	プロの殺し屋ですが、あまりにもあっさりやられすぎですよね。要が最強なのはわかりますが、ワルプルギスなんて大したことが無さそうな組織のトップにあんなに簡単に負けてしまうとは。そんなトップと、要の実力差も気になりますね。

7話	これまでいろんな暗殺者が出てくる漫画を読んできましたけど、この針を使った要のやり方が本当にかっこいいです。スズメバチと呼ばれるだけのことがあります。少しでも視線を外せば、周りの人間が刺されている。そんな要が手こずるところは想像できないです。
8話	確かに雀蜂の特徴はある程度はわかったでしょう。とはいえ、それだけであれだけの人数を候補にすることができるでしょうか。ピンポイントに要をターゲットにしすぎでしょう。これまで無双していた要がこんな簡単に意表をつかれるのもちょっと違和感がありました。そもそも最強の殺し屋なのに身バレするの早すぎです。
8話	ただお見舞いに来ていただけであんな仕打ちを受けるなんて、本当にヤバすぎる集団です。しかも、まだこの時点では要が本当に雀蜂なのかもわかっていないのにやりすぎでしょう。これほど普段から派手に動いているなら、すでに潰されていてもおかしくない組織だと思いますね。
9話	要の演技力はなかなかのものですね。もともと暗殺者っぽくない地味な見た目をしていますし、こういうときのために、普通の男性っぽい雰囲気を演じているのでしょうか。写真を見て動揺するかと思いましたが、すぐにその判断ができるのも流石って感じです。
9話	要の反撃がスカっとしました。こんな酷い奴らは始末してしまった方がいい。そう考えていたところに、この快進撃ですから。ガンガン敵を倒していくシーンは爽快でした。

漫画全巻の部屋
by ㈱グリュックス